

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

木村さんの発表について、何時間も議論できるポイントがあり、書きたいことができないが、「学習的自立」を支援するという考えは現在が教育現場において重要であると思う。それと
言われたからやるのではなく、自発的に取り組むようになるにはどうしたらよいか、勉強するの
が楽しいと思うにはどうしたらよいか。分かる、
問題を解くことができてうれしいと思えば、
自ら自習に取り組む。成績も伸びるのだろうか。
研究テーマにするか考える。

家庭教師と学校の教師は違うのだろうか。

1311
深谷さんからの資料を参考にしようとしている
こと非常に興味をもちました。1人の教師の
各々の子どもの感情推測を見て、岸いかにあ
れば。(16では子どもの側からたのみに、3/2では教師
の側からたのみに) またおもしろそうである。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

単にメール・スタンプと言っても、生徒の学力のレベル
以上の段界の問題を留意するのはとても難しい
と思います。しかし、それができるば、子どもへの意
欲は上がると思います。到達度別のクラス分けも
これに当たると思います。

スマート・マ>に関しては、昔々情報が共有できたり、
twitterがスト入のは何年にもたたりでプラスの面も
あるので一概がいには否定できないと思います。
友人との関係といった、環境要因が大きく関係
していると思います。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

小学1年生から勉強し直すというのはスモールステップの原理を即していいと思った。それに対するフィードバック(評価)を高得点で選ってくる(逆に点数が低いと選ばつづいたところだと分かる)ためモチベーションが上がるかもしれない。

驚きだったのが私立の小学校の話の中で小学校から成績順でクラス編成がされている、ということである。「自分ができる子」という意識を押しつけているし、リスクが高いように思えた。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

皆の前で発表するとして、頭の中を整理することができた。課題から見ると、「何をしたいように見えても、〈場〉をデザイン(しているだけ)という把握があったが、考えをみると、確かにそうであるが(はない)何もしていないが、ある意味「価値を見出している」とみるのが、それがどの種の「学習の〈場〉」になるか(はない)。

「家庭教師」という立場からの研究も面白いである。論文も課に対して、不利なようにあるが、どういった方向からの研究もあってみよう。

これ以上の仕方必要練習。お礼状も送付してあげたい。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

大学で学ぶことにどんな意味があるのかの説明責任について、場のデザインは大学の責任だという話があった。私はこれまで、大学で求められる学力と高校で身につける学力のギャップの責任は、主に入試制度と高校教育の側にあると思っていた。自分の経験から、大学で学ぶことへの意味づけは自分自身のなすべきことだと思っていたが、今日の話を聞いて考えが変わった。学生の興味・関心を引き出すことのサポートは大学の責任でもある。そう考えると、今の大学では、学生の相談相手となる先輩や教員との関係が希薄すぎるのではないかと思った。

木村さんの発表がとても興味深かった。一度成績が上がったのに、入試後に下がってしまったという話があったが、それは自習によって、勉強そのものへの関心が高まったのか、成績が上がることに関心を見出したのか。自己効力感が高まったとして、自分が学び成長できるということへの効力感か、成績がなかなか高くないという効力感が高まったのかのどちらかかもしれないと思った。

また、自習には課題が出されるものとそうでないものがある。課題がない自習の場合、自分が何をしたいのか、自分に何が足りないのか問い直す作業が起こるので、こちらの自習がより必要ではないかと思った。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

木村さんの家庭教師実践について

何もしない、ということが学習の場の提供共にならなくて、子どもは「叱られないし、自分のペースを制限されることもないし、隣の人(木村さん)が何も言わないし、だから自分でやるしかないよ」と内的に動機づけされている感じがした。人間は何もないと何かセリになるし、簡単すぎる課題はないと、少し高度なことを試してみたいものはないのよ、それがうまく子どもと合っていたのかなと思った。

今の子どもたちは学校の課題とか塾の授業とか部活とか、こなすべきことやツールが多すぎて、逆に自分で学ばないのではないかと考えられる。